

カリキュラム

B. 組織マネジメント

経営戦略

ビジネスとSDGs(持続可能な開発目標)の融合

コースのねらい	世界中の企業がSDGsを経営の中に取り込もうと力を注いでおり、SDGsを経営に組み込むべく様々な取組が進められている中でSDGsの必要性を理解し、自社のビジネスの成長につなげる知識を習得する。
---------	--

	「基本項目」	「主な内容」	訓練時間(H)	
講義内容	1	SDGsの概要	<p>(1)SDGsとは 全世界で認識されている社会問題の解決を掲げたSDGs(持続可能な開発目標)とは何か、そしてビジネスにどう影響するか、あるいは企業存続・発展においてどんな効果があるかを説明する。</p> <p>(2)SDGsコンパスとは SDGsコンパスが規定している手順「SDGsを理解する」→「優先課題を決定する」→「目標を設定する」→「経営へ統合する」→「報告とコミュニケーションを行う」を説明する。</p> <p>(3)SDGs経営ガイドとは SDGsの精神は、日本古来からの「会社が世のため人のために存在するという考え方」や近江商人の「三方よし」、渋沢栄一の道徳経済合一説に合致している。その関係性も含めて、説明する。</p> <p>(4)SDGsとSociety 5.0、DXの関連性 最近ではサイバー空間とフィジカル空間を融合させたシステムのSociety 5.0やモノや社会の動きをデータ化するDXが高度化している中で、それをSDGsの実現策として適用する方法を説明する。</p>	1.0
		ミニ演習	目標1～17のうち関心のある目標の設定 (「個人として」でも「会社として」でも構いません)	
	2	SDGsの取組	<p>(1)SDGsを意識したバリューチェーン構築の2つの方向性の考え方 SDGsへの貢献のための以下の2つの方向性を説明する。 ①自社のビジネスプロセスでSDGs準拠の方向 ②SDGsに貢献できる商品・サービス提供の方向</p> <p>(2)SDGsの取組事例の紹介 SDGsに取組む意義を踏まえながら、取組み事例のポイントや構築した仕組みやプロセス、体制を説明する。と同時に、各企業が自らSDGsに取組むためのヒントも説明する。</p> <p>(3)SDGsに取組むことのメリット (企業イメージの向上、社会課題への対応企業の生存戦略、新たな市場の開拓等) SDGsの取組を実現する時に、企業の存続や商品開発、市場開拓などを盛り込んで企図することが必要で、その方法を説明する。</p>	2.5
		演習1	提示した複数のSDGsの取組事例から自社に適用できそうな事例を選択して(もし適用できる事例がなければ、自分で取組を設定して)、「 自社への適用を踏まえたSDGsの取組事例のポイント整理 」	
	3	開発目標の戦略	(1)SDGsコンパスを活用した企業取組 企業にとって、SDGsを経営戦略と整合させて、社会問題の解決に貢献することは存在意義に繋がる。SDGsの取組事例を用いながら、その貢献を測定し、管理する指針の作成ポイントを説明する。	2.5
		演習2	SDGsを意識したバリューチェーン構築の2つの方向性の考え方を踏まえて、「 ケーススタディで2つの方向性からSDGsバリューチェーン構想 」(グループディスカッション)	
	発表&講評	演習1～2のアウトプットを講評者・参加者の前で発表する。グループごとに演習1と2者を発表 → 講師の講評		
		合計時間	6.0	

カリキュラム作成のポイント

企業の使命が社会活動・社会生活における貢献であることから、社会課題を目標化したSDGsへの取組みは重要で、それが事業の存続・発展に奏功することが理解できる。SDGsを意識したバリューチェーンには2つの方向性があり、事業特性や既存ビジネスとの連動性等から、どちらに取り組むべきかを考え、事業化する方法を習得できる。

講師から一言

SDGsで成功するには、まず自社の事業を考え、その中にSDGs要素を盛り込むことです。①自社プロセスと②社会貢献の商品の2つの観点から盛り込みを考えましょう！